

平成25年度第8回SPODネットワークコア運営協議会 議事次第

日 時：平成26年1月29日（水）10：00～11：30

場 所：各コア校（遠隔配信）

議 題：

1. 平成24年度事業評価委員会委員からの指摘事項に対する対応状況について
 - ・平成24年度事業評価委員会委員からの指摘事項に対する対応状況について（案）【資料1】

2. SPOD将来構想ワーキンググループについて
 - ・SPOD将来構想ワーキンググループ設置に関する申合せ（案）【資料2】

3. SPODフォーラム2014について
 - ・SPODフォーラム2014の開催について（案）【資料3-1】
 - ・SPODフォーラム2014スケジュール（案）【資料3-2】

4. SPODネットワークコア運営協議会FD／SD専門部会について
 - ・平成25年度SPODネットワークコア運営協議会FD専門部会（第2回）議事概要【資料4-1】
 - ・平成25年度SPODネットワークコア運営協議会FD専門部会（第2回）議事次第【参考資料1-1】
 - ・平成25年度SPODネットワークコア運営協議会SD専門部会（第2回）議事概要【資料4-2】
 - ・平成25年度SPODネットワークコア運営協議会SD専門部会（第2回）議事次第【参考資料1-2】

5. 平成25年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」総会等の開催について
 - ・平成25年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」総会及びFD／SD分科会 実施要項（案）【資料5】

6. 平成25年度SPOD事業評価委員会の開催について
 - ・平成25年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」（SPOD）事業評価委員会実施要項（案）【資料6】

7. ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップの開催について
 - ・ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ実施要項等【資料7】

8. 愛媛大学教育改革シンポジウムの開催について
 - ・平成25年度愛媛大学教育改革シンポジウムチラシ【資料8】

9. その他

平成24年度SPOD事業評価委員会からの指摘事項に対する対応状況について（案）

【すぐに検討が必要な課題】

事項	評価委員からの意見	実施状況(案)(◎実施済み, ○一部実施, ×未実施)	対応策(平成25年度第3回ネットワークコア運営協議会承認)		
1. 多様なニーズに応じた研修プログラムの開発	① 【FD】 現在在職している教員が学生時代を過ごした大学の授業経験とは全く異なったポリシーで教育改革が進もうとしている。このような新たな動きを的確にFDの中で研鑽できるようなプログラムの提供を願いたい。特に授業外で学生が学習しなければならないような授業をどのようにして行うかという課題は重要と考える。	◎ SPODフォーラム2013では、参加者からニーズが高かったポートフォリオを全体テーマとしたほか、危機管理やIR関連のマクロレベルのプログラムを開催した。また、医学系や理工系向けの分野別プログラムに加え、現在課題とされている学生の授業外学習時間確保を促す自律学習やチーム基盤学習に関するものも開催した。なお、特にニーズの高いIR関連プログラムについては、SPODフォーラムで新規開講したほか、平成25年度から、SPOD内講師派遣プログラム事業にも講座を追加している。 ◎ SPODフォーラムの事後アンケートでは、参加者がフォーラムで得た知識やスキルを実際に活用しているか検証するために、実施時期を遅らせ、各職場や教育現場で活かされているかをはかるための設問を加えた。その結果、80%がフォーラムで得た知識を活用していると回答があった。このようにフォーラム実施の効果を測定することも開始しており、今後も効果測定しつつ、ニーズに沿ったプログラムを開講できるよう努める。 ○ 調査・研究プロジェクトのうちの「連携効果検証ワーキンググループ」では、SPOD研修の効果検証、及びSPOD活動の質向上のために過去3年分の新任教員研修受講者に対し、追跡調査として「SPOD新任教員研修に関するアンケート調査」を実施し、今年度中に集計する予定である。集計結果については、来年度以降のプログラム開発に活かしていく。	SPODフォーラムでは、平成24年度はアクティブラーニング、平成25年度はポートフォリオを全体テーマとするなど、時代のニーズに沿ったプログラムの提供を行っているが、更なるプログラムの充実のため、外部機関等との共催についても検討する。学生の間外学習についてもe-learning関連のプログラムの開発等も行っており、今後も社会の動向をとらえたプログラムを開発・展開するよう努める。 さらに、SPOD全加盟校の教員向けに実施された「SPOD教員向けニーズアンケート」の集計結果や調査・研究プロジェクトでの調査結果等を検証し、ニーズに合うプログラム開発につなげる。また、FD/SDプログラム受講者アンケートの分析を行い、レベル別、経験年数別等のプログラム開発についても検討する。 FDプログラムについては第2段階に入ってきたとも考えられ、プログラム開発においてはミクロレベルのFDからミドル、マクロレベルのFDへ視野を広げ、研修分野や研修形態等も含め、研修のあり方について見直しを検討する。 また、積極的に新規講師の開拓に努めており、今年度のフォーラムでも新たに4人が加わった。今後も、幅広いニーズに対応できるよう講師の開拓を行う。		
	② 【FD】 プログラムがやや出尽した感がある。これに伴うマンネリ化があるのではないか(実施者自身にも)。				
	③ 【FD】 プログラムの内容がミクロレベルのFD(授業・教授法の改善)に偏っている。長期的な関与も含めて、ミドルレベルやマクロレベルのFDを充実させていくべきであろう。				
	④ 【FD・SD共通】 教職協働は、古くて新しい課題である。どのように教員と職員とが協働して教育研究等を推進するか。FDとSDとにまたがる課題検討プログラムの開発が必要になってきているように思う。			◎ SPODフォーラム2013では全42プログラム中、FD・SD共通プログラムを10講座を開講した。そのうち、7プログラムはマネジメントレベルのものであり、大学運営等の課題について教職員が共に考える機会となった。	SPODフォーラム2013では、新たにマネジメントレベルのFD・SD共通プログラムを実施予定であり、教員と職員が共に考え、交流する機会を設けている。今後もこうしたFD・SD共通プログラムの開発を検討していく。
	⑤ 【SD】 次世代リーダー養成ゼミナールについては、もう少し広範に、優秀だが手を挙げたくても挙げられない職員に受講してもらう手だてを考える必要があるのではないか。			○ 今年度、連携効果・組織変容検証プロジェクトチームによる検証において、次世代リーダー養成ゼミナールでは、受講生の大部分が自ら手を挙げた職員ではなく、各大学が将来の幹部候補生を選考して受講生を推薦していたことが確認できた。 今後、各大学が組織として受講生を選考しやすいように、次世代リーダー養成ゼミナールを受講すればどのようなスキルが身につくか等内容を広く理解いただくために、カリキュラムマップ作成等を行っていく。 また、今年度、行政管理学会やSD専門部会で実施した連携効果・組織変容検証プロジェクトチームによる効果検証及び調査報告を今後も行っていく。	今年度から本格始動する調査・研究プロジェクトの1つである、SDの効果検証及び組織変容を検証する「連携効果・組織変容検証プロジェクトチーム」には、次世代リーダー養成ゼミナールの修了生等も加わっており、修了生を通じ、本ゼミナールの有効性を広く発信することにより、研修参加にあたっての周囲の理解を図っていく。 また、次世代リーダー養成ゼミナールについては、修了生を管理職にあてる等、制度化された組織も出てきており、その有効性は認められつつある。これらの組織を成果実例として発信していくことにより、各加盟校における本ゼミナールの活用を促していく。
→2. 教員の資格化	④ 【FD】 新任教員研修が標準化したのであるから、教授能力証明書の発行やその基準についても、迅速に進める必要があるのではないかと。	※長期的に検討すべき課題へ移動	→調査・研究プロジェクト事業の1つ「高等教育教授能力証明プログラム検討ワーキンググループ」においてすでに議論を始めており、今後も引き続き検討を行う。		
3. SD講師養成	① 【SD】 SD講師養成プログラムを利用して内部で指導者を育成する方向は適当である。ただ、それらのプログラムにおいて、講師とはこのような資格、能力が必要であるとステレオタイプに考える必要はないのではないか。教えるという体験や経験が第一に重要である。教えるという体験や経験を通して得られた喜びや失敗や改善等を検討課題とした講師養成プログラムを是非検討願いたい。	◎ 到達目標を決めて実施するSPOD-SDプログラムは、実施するに当たって質保証することは大前提であり、経験の少ないSD講師については、SPOD-SDCによる個別の事前レクチャーを行い、個性を活かした講師養成を行うことができた。SPODフォーラム2013で実施した、次世代リーダー養成ゼミナール受講生が講師を務めたプログラムについても、高い満足度を得ている。なお、受講生によるアンケートの集計結果をSD講師に公開しているため、その集計結果を踏まえた講師養成研修を行い質保証を図っている。 「職員のための講師養成講座」では、通常「総論」、及び1科目に特化した「各論」を1回ずつ実施していたが、来年度からは各論に代えてマイクロティーチングを実施することにより、受講者同士短時間で講義とフィードバックを繰り返す、自分と他者の講義を振り返りながら、改善・スキルアップする予定である。また、来年度の「職員のための講師養成講座」では、実際に講師をした職員に体験談をお話してもらうことも検討する。	経験の少ないSD講師については、事前に模擬授業を行い、SPOD-SDC等の助言により、個性を活かした講師となるような環境が整えられている。頂いたご意見を参考に、今後も、SD講師養成に努めていく。		
4. SPOD事業の取組成果の検証、情報発信	① 【FD】 SPODが提供しているFDプログラムが、教員のニーズにキャッチアップしていないかもしれない。教員は何を求めているかという原点にもどって再度分析し、教員がこのFD出席は必須と考えるような環境とし、広報を工夫するよう求めたい。	◎ フォーラムの様子を撮影し、フォーラム紹介DVDを作成した。今後はSPODホームページに掲載し、新たな参加者の開拓に繋げる予定である。 また、今年度もSPODフォーラム開催前には、SPODのメールマガジンや高等教育に関連するメーリングリスト等で積極的に案内を行い、研修会等において各講師からの周知も行った。事前アンケートではこれらの広報を受けて参加したとの回答も見られ、広報活動の効果がみられる。 ◎ 今回のSPODフォーラム2013においては、各プログラム参加者のべ人数は教員712名、職員771名とほぼ同数の参加がみられ、例年と比べ、比較的バランスがとれている。(※2012年は教員576名、職員770名)今後も、多数の教職員に参加してもらうため、ニーズに合ったプログラム提供や広報活動に努める。 さらに、先述の新任教員研修受講者向けのアンケートを実施し、新任教員が求める研修内容を調査しているため、この分析結果を元に必要なプログラム開発に努める。	上記1-①～③への対応を含めFDで真に必要なとされている研修の開発・提供に努める。 SPODホームページやメールマガジン等を活用し、SPOD事業の積極的広報及びフォーラム等の様子の一部を動画で配信するなど、プログラムガイドや実施要項では伝わらない情報を発信していく。 SPODフォーラムについては、今後他のネットワークや機関などと連携しての共催を検討し、参加者の増加やプログラムの充実を図る。 また、FDを必須とする環境については、テニュー・トラック制度を導入し、対象教員に一定時間の研修を義務づける組織も出てきている。大学設置基準等では、教員のFDが義務化されており、加盟校内の教員がSPOD事業のFDプログラムを積極的に活用してもらえるよう、当大学の事例を含め、広報活動を充実させる。		
	② 【FD】 SPODフォーラムへの参加者が職員(65%)、教員(33%)と、少しアンバランスになってきている。フォーラムだけでなく、全般的に、SPODのFD事業に対する加盟校教員の関心が低くなりつつあるのではないかと。				
	③ 【SD】 SDの研修会やスタッフ・ポートフォリオをこれだけ大々的に実施されておられて、職員の能力は高くなったのか。研修会参加の満足度はわかるが、これだけの規模で長期間実施されておられるので、その成果を見せていただければ、我々の役に立つ。			○ 今年度、次世代リーダー養成ゼミナール修了生にアンケート等を実施し、その有効性について大学行政管理学会等で発表を行った。 また、「次世代リーダー養成ゼミナール」プロジェクト報告書についてもプロジェクト実践論文となるよう、今年度より受講生に対して指導担当教員制を適用し指導体制を強化している。加えて、カリキュラムマップや総括等を盛り込み、現行のレポート集にとどまらない広く成果を確認できるものとなるよう作成する。カリキュラムマップの作成については来年度完成を予定している。このカリキュラムマップの作成により、ゼミナールの内容や身につけられるスキル等、広く理解いただけるようにしていく。 ○ 次世代リーダー養成ゼミナールの経費については、現在ゼミナールの修了生がゼミナールで身につけたスキルを基に、学内及びSPOD内講師を務めており、以前は外部講師委託していた経費を削減できている。 なお、研修修了後、継続的に効果検証を行うことについては、スタッフ・ポートフォリオやアンケートを活用し実施していくことを検討する。	1-⑤への対応と併せ、スタッフ・ポートフォリオを活用して、研修受講後の職員を継続的に追跡していくシステムについて検討する。 次世代リーダー養成ゼミナールについては、受講生や修了生の間でネットワークが構築されており、このネットワークを活用しつつフォローアップ調査を行い、研究論文等にまとめ、公表していく。さらに、受講生が作成している報告書については、プロジェクト実践論文となるよう指導体制を強化し、現行のレポート集にとどまらない、広く成果を確認できるものとなるよう見直しを図る。また、本ゼミナールは長期的に見れば組織内における成果は十分見込めるプログラムであるが、他の研修と比較して予算だけでなく講師への負担も圧倒的に大きいと、今後受講料の一部を各機関において負担いただくことが可能かどうか調査を含め、検討していく。
	④ 【SD】 次世代リーダー養成について、対象者の割には予算投資が大き過ぎると言える。プログラムの重要度は理解されるものの、このような投資に見合う成果が出ているかどうかについては大いに検討する余地がある。				
5. SPODの方向性	① 【SD】 何のためにSDを行うのか、目的がやや不鮮明な印象を受ける。	○ 研修プログラムガイド2013のP4～P8にもSDの目的等は記載されているが、現在その目的に沿う形でSDマップの見直しを含めた、SDプログラム及び実施体制の見直しを行っている。来年度中には見直しを終え再来年度から実施できるよう、SDの目的も含め実情にあったSD構想を検討していく。 ○ 次世代リーダー養成ゼミナールにおいても、同様にカリキュラムマップ作成等を行っている。	SPOD事業を開始して5年が経過する中で、実際の運用を経て当初の構想との乖離が生まれ、その課題が見えてきている。今年度はSDマップの見直しを検討しているため、SDの目的も含め実情に合ったSD構想を検討する。		
② 【組織運営等】 SPOD立ちあげ当初に描いていた構想(大学カリキュラムのようなもの)が変容しているようにも思える。一度、構想を見直し、現実的な構想を再度立てていただきたい。					

【すぐに検討が必要な課題】

事項	評価委員からの意見	実施状況(案) (◎実施済み, ○一部実施, ×未実施)	対応策(平成25年度第3回ネットワークコア運営協議会承認)
6. SPOD内ネットワークの強化	① 【組織運営等】 拠点校以外の大学の積極的な関与が見えにくい。たとえば本組織の運営に関して、各大学の役割と責任を明確にすること、積極的な役割分担を促すための支援を行うことなどが必要ではないか。	○ 次世代リーダー養成ゼミナールや講師養成研修を通してSD講師の育成に努めるほか、新規FD講師を発掘しており、SPODフォーラム2013では、ネットワークコア校を除く加盟校から6名の教職員が講師を務めた。さらに、同フォーラムの運営スタッフとして、愛媛県内加盟校(愛媛大学を除く)から12名、次年度フォーラム開催地である高知大学から9名の職員が参加し、スタッフ及び参加者との交流の中でネットワーク間の連携強化へと繋がった。 また、徳島県下の加盟校によって構成される「T-SPOD会議」等、年に数回県内加盟校会議を開催する県もあり、県単位でも加盟校間の連携を図っている。 なお、平成26年度は四国大学(徳島県、私立)で学務系職員養成プログラム研修を実施することになっており、加盟校内の講師育成等、各面で加盟校のSPOD事業への関与を高めていく。	SPOD事業の運営についてはネットワークコア校が担当することとなっているが、研修実施にあたっては、コア校以外の加盟校からも講師を担当できる者の発掘・育成に取り組んでおり、こうした形で事業へ貢献いただいている加盟校も増えてきている。また、フォーラムはSPODのメインイベントの一つでもあるため、今後実施にあたっては、開催校の教職員のみならず各加盟校の教職員にも当日の運営の手伝いを呼びかけるなど、各加盟校が連携して事業を進められるような体制について検討する。
7. SPODにおける取組の評価、検証	① 【FD・SD共通】 カリキュラム/組織変容の継続的支援。複数の機関をパイロット校として、資源を投入するターゲットを絞りこみ、連携成果をあげるというアイデアについても検討するといいい。現状のように単発の研修会ではなく、組織変容、カリキュラム変容を長期的に促進するというプログラムである。対面と遠隔会議を年に何回か繰り返していくというシステムである。	○ FD/SD両部門において、調査・研究プロジェクトが本格的に始動した。 FD部門では「組織変容検証ワーキンググループ」において、検証対象校の選定や設問内容の検討を始めており、調査の実施に向けて準備を進めている。 SD部門では、「連携効果・組織変容検証プロジェクトチーム」の下、ワーキングチームを発足し、次世代養成ゼミナール修了生を対象としてアンケート及びインタビュー調査を実施した。その結果、本ゼミナール修了生を管理職に充てたり、学内研修の講師に起用する等、研修の成果が所属機関内での評価に繋がっている組織を確認することができた。このことは、大学行政管理学会でも発表されており、引き続き追跡調査を行っていく。 これらの調査結果を加盟校内に発信していく。	SPODは加盟校の分担金による連携事業であるため、ある組織に絞って資源を投入するかどうかについては慎重に議論すべきである。ただし、調査・研究プロジェクト事業の1つ「組織変容検証ワーキンググループ」において、組織変容が見られる加盟校について、その経緯を調査する予定である。その結果を加盟校内で発信していくことにより、他加盟校の参考となり、組織改革の一助となることを目指す。
8. ポートフォリオの普及促進	① 【SD】 現在のポートフォリオは、身上調書と変わらない。これをあえてポートフォリオと読んでいる意義が不鮮明である。	◎ 今年度、大学行政管理学会やSPODフォーラム等でスタッフポートフォリオの有効性・特長を発表した。今後もこのような取組をとおしてその普及に努める。	スタッフポートフォリオ(SP)は、これまでの身上調書とは違い、職員の業績記録(エビデンス含む)、自らのビジョン(理念)・ゴール(目標)等を取り入れている。作成に当たっては、メンタリングを実施し、組織と職員個人のベクトルを近づけている。これにより、職員自らがこれまでの業績に基づくキャリア形成を図ることができ、かつ、組織的な人材育成にとっても有効なツールとなっている。また、愛媛大学においては、人事異動の希望といった身上調書的な要素を取り入れた独自のSPを導入している。このように、人材育成にとって有効なツールとなること、各組織独自のSPが考えられること等、SPには身上調書とは違った有効性や特長がある。今後、大学行政管理学会等でSPの有効性・特長を発表していくことにより、その普及に努める。
9. SPODの事業運営	① 【組織運営等】 これから「SPODフォーラム」を毎年各県に回し、オリンピックのように4年に一回フォーラムが各県に回ってくるように定例化すると、四国全体が活性化するのはないか。	○ 平成26年度のSPODフォーラム2014は高知大学での開催が決定している。事後アンケートでは参加者から他県開催の要望が寄せられており、四国各県での持ち回り開催のルール化について引き続き検討していく。	平成25年度については愛媛大学開催となるが、来年度については高知大学で開催予定である。ご提案の開催場所持ち回りの定例化については、各校の事情を考慮しながら、今後ネットワークコア運営協議会でルール化について検討していく。

【中期的に検討すべき課題】

評価委員からの意見	実施状況(◎実施済み, ○一部実施, △検討中, ×未実施)	対応策(案)
【組織運営等】 当初事業計画から事業も拡大し深化してきている。SPOD事業における統合と分化の方向性について、中期計画の形で参加校で共有する時期に至っているように思う。	△ SPOD設立から6年目を迎え、取組成果を検証し、高等教育の実情に即した事業を展開していくため、「SPOD将来構想ワーキンググループ」の設置に向けて申合せを作成し、今年度中に設置する予定である。平成26年度以降、本ワーキンググループを通じて中長期的にSPODの運営について検討していく。	SPOD事業における統合と分化の方向性について、「SPOD将来構想ワーキンググループ」を今年度に立ち上げ、中長期の目標を検討していく。
【SD】 愛媛大学や次世代リーダーを越えて、加盟校全域にスタッフ・ポートフォリオを促進するための仕組みについて早急に議論すべきである。すでに大阪府立高専でもスタッフ・ポートフォリオの作成ワークショップが開催される予定である。SPOD内で生まれた取組をまずはSPOD内で普及させるべきである。	○ SPODフォーラム2013のシンポジウムにおいて、「ポートフォリオは大学教育の質向上に貢献できるか？」をテーマにポートフォリオの第一人者にご講演いただき、約9割の参加者から「満足」との評価をいただいた。また、ポートフォリオへの理解の深まりが伺える意見が多く寄せられた。 SPODでは、設立当初から教育の質向上に努め、それに資するツールとしてポートフォリオを重視しており、近年はアカデミック・ポートフォリオ(AP)作成ワークショップも実施する等、SP, TP, APの3つのワークショップを通じてポートフォリオの意義を発信している。今後も教職員自身の有効な振り返りのツールとしてポートフォリオのさらなる普及に努める。	SPODフォーラム2013の統一テーマが「ポートフォリオ(TP・SP・LP)による質向上」であり、TP, SPの広報の場として情報発信に取り組む。 ただし、SPについてはSPODが開発したもので歴史も浅い上、メンタリングを実施しながら作成を行うものであるため、普及には時間がかかる。しかし、今後も普及のため学会等でSP導入の成果について積極的に発表していく。
【FD】 ティーチング・ポートフォリオをSPOD内でどのように位置づけていこうとされているのか、方向性が分からない。	△ 学生調査・IRワーキンググループにおいて、学生を対象としたアンケートの設問を作成し、FD専門部会で設問内容と併せて実施方法について検討した。しかし、実施方法については解決すべき課題も多く、引き続き慎重に検討していく。	調査・研究プロジェクト事業の一つ「学生調査・IRワーキンググループ」が実施予定の学生アンケートの中で、学生の学習環境と併せ、教員に関する設問を入れる予定である。

【長期的に検討すべき課題】

評価委員からの意見	理由
【組織運営等】 SPODの地域性や資金面を考えると、国だけではなく地域の行政や民間企業との交流機会をつくっていくことが大切である。	SPODの今後の持続的な運営を考えた場合、自治体等との連携・支援を得ることは有用である。四国の大学活性化を通した四国の活性化を目指し、社会貢献を視野に入れた取組を検討し、行政からの支援を得る方策も考えられるが、実現に向けてはニーズ調査・人的資源を含めて検討課題が多く時間を要する。
【FD】 FDer養成取組は高く評価できるが、一時検討されていたFDerの資格化は、その後どのようになったのか明確にする必要がある。資格に関する方針を明確にしてほしい。	現在日本高等教育開発協会(JAED)において検討中であり、今後、その動向を見つつ検討していく予定である。
【FD】 新任教員研修が標準化したのであるから、教授能力証明書の発行やその基準についても、迅速に進める必要があるのではないか。	高等教育教授能力証明プログラムワーキンググループでは、当初、SPOD内に限定しての教授能力証明を想定していた。しかし、近年、体系的にFDプログラムを提供する大学等が増えており、組織を越えた研修内容の標準化及び修了証の互換性(有効性)について今後の動向を見て長期的に検討する。

SPOD将来構想ワーキンググループ設置に関する申合せ（案）

平成26年 月 日
ネットワークコア運営協議会決定

（設置）

第1条 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク規約第14条の規定に基づき、ネットワークコア運営協議会（以下「協議会」という）に、SPOD将来構想ワーキンググループ（以下「ワーキンググループ」という）を置く。

（審議事項）

第2条 ワーキンググループは、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（以下「SPOD」という）の将来構想に関する事項について審議し、その効果的な事業推進のための具体案を作成し、協議会に提案する。

（組織）

第3条 ワーキンググループは、次の各号に掲げるメンバーをもって組織する。

- (1) 企画・実施統括者
- (2) FD専門部会部会長
- (3) SD専門部会部会長
- (4) 各コア校のFD、SD又は事務担当者 1名
- (5) SPOD事務局の職員 若干名
- (6) その他ワーキンググループが必要と認めた者

（代表）

第4条 ワーキンググループに代表をおき、企画・実施統括者をもってあてる。

2 代表は、ワーキンググループを招集し、その議長となる。

（事務）

第5条 このワーキンググループに関する事務は、SPOD事務局において行う。

（雑則）

第6条 この申合わせに定めるもののほか、必要な事項はワーキンググループが定める。

附 則

この申合せは、平成26年 月 日から施行する。

SPODフォーラム2014の開催について（修正案）

（趣旨）

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（ネットワーク略称＝SPOD）」の目玉企画として、SPODの実施する研修プログラム等を集中的に提供する。

（主催）

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室（教職員能力開発拠点）

（日時）

平成26年 8月27日（水）～ 8月29日（金）

（会場）

高知大学朝倉キャンパス（高知県高知市曙町2-5-1）

（参加対象者）

1. 「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」加盟33校の教職員
2. 1. 以外でFD・SDに興味のある方
※SPOD加盟校の参加者を優先する。

（全体テーマ）

「“気づき”と“振り返り”が大学を変える ～ 成長を確かなものにするために～」

（内容）

大学が大きく変わろうとしている節目にあって、“気づき”と“振り返り”の重要性が注目されています。学習成果や教育業績、業務実績の向上のためのポートフォリオも、より質の高い“振り返り”とそれによって得られる“気づき”をもとにして次のステップをめざすという考え方のもとに普及しつつあります。

SPODフォーラム2014では、シンポジウムや関連プログラムをはじめ、多彩な研修プログラムを通じて、参加者に“気づき”と“振り返り”の場を提供し、学生、教職員の成長、ひいては大学・短期大学・高等専門学校の組織としての成長を確かなものとしていくことをめざしています。

（シンポジウム）

プログラム名：「リフレクション学」を創る ～成長を確かなものにするために～
講師：中原 淳氏（東京大学 大学総合教育研究センター 准教授）

（事務担当）

高知大学学務部学務課，SPOD事務局（愛媛大学教育企画課）

会場	会場(1) (共通教育1号館) 125番教室 (100名収容)	会場(2) (共通教育1号館) 136番教室 (70名収容)	会場(3) (共通教育1号館) 141番教室 (70名収容)	会場(4) (共通教育3号館) 310番教室 (90名収容)	会場(5) (共通教育3号館) 311番教室 (70名収容)	会場(6) (共通教育3号館) 335番教室 (90名収容)	会場(7) (学生会館:2階) 談話室(1～3) (100名収容)
期日・時限・時間帯							
受付	9:00～						
1日目	10:00～	10:00～17:30	11:00～16:00	11:00～16:00	11:00～16:00	11:00～16:00	
	11:00～						
	12:00						
昼							
8月27日(水)	13:00～	10:00～17:30	11:00～16:00	11:00～16:00	11:00～16:00	11:00～16:00	
	15:00						
	15:30						
	17:30						

全体受付:[共通教育2号館:210番教室(予定)]

10:00	8. 単独(FD) 徳島大学(吉田博) 「タイトル未定」	9. 単独(SD) 愛媛大学(仲道雅輝) 「インストラクショナルデザインを 活用した…」	10. 単独(FD・SD共通) (講師未定) 「効果的な振り返りの手法」	11. 単独(FD) 高知大学(俣野秀典) 「タイトル未定」	12. 単独(FD) 愛媛大学(小林直人) 「大人教養法の基本」	13. 単独(SD) 愛媛大学(秦敬治) 「職員向けマネジメントセミ ナー—もし、あなたの…」	
12:00							
13:00	14. 単独(FD・SD共通) 佐藤浩章(大阪大学) リーダーセミナーI「アクティブ・ラーニン グを促すカリキュラム・マネジメント」	15. 単独(SD) 愛媛大学他 「国際連携系職員養成研修」	16. 単独(FD) 高知大学(竹岡篤永) 「Eラーニング関連」	17. 単独(FD・SD共通) 愛媛大学(清水栄子) 「学生支援関連」	18. 単独(FD・SD共通) 高知大学(上田・今城) 「サービスマネジメント」	19. 単独(FD) 香川大学	
15:00							
15:30	20. 単独(FD・SD共通) 大坪檀(静岡産業大学) リーダーセミナーII「大学にお けるガバナンスとは？」	21. 単独(FD)	22. 単独(FD) 愛媛大学	23. 単独(SD)	24. 単独(SD)	25. 単独(FD・SD共通) 高知大学(未定) 「修学支援関連」	
17:30							
18:00							
20:00							
懇親会(会場:高知大学生協同組合:食堂スペース:150人程度参加を想定)							
8月28日(木)							33. 四国キャンパス元気ブ ロジェクト2014きんぱんばすこ らぼれーしょん (高知大学他)

10:00	26. 単独(SD)	27. 単独(FD) 香川大学	28. 単独(SD) 愛媛大学他 「社会連携系職員養成研修」	29. 単独(FD・SD共通) 高知大学(大槻知史) 「大学の防災マネジメント」	30. 単独(FD) 徳島大学	31. 単独(FD・SD共通)	33. 四国キャンパス元気ブ ロジェクト2014きんぱんばすこ らぼれーしょん(高知大学他)
12:00							
13:00							
15:30							
8月29日(金)							

32. (FD・SD共通)(会場(8):共通教育2号館:212番教室)
シンポジウム【テーマ:「リフレグション学」を創る～成長を確かなものにするために～】[ファシリテーター:中原淳(東京大学)/俣野秀典(高知大学)]

(注1) 赤字表記は「FDプログラム」を、青字表記は「SDプログラム」を、緑色表記は「FD・SD共通プログラム」を示す。
 (注2) 番号2～7の「連続受講」は、連続での受講を必須とするプログラムを示す。
 (注3) 背景が黄色のコマは、講師(もしくは担当大学)及びテーマ等が未定のものを示す。

平成26年度：SPODフォーラム2014(H26.8.27～8.29：高知大学開講プログラム(3日間開催) (案1)

通番	区分	プログラム名称	担当	募集 定員	収容 人数	形態	時間(H)
1	SD			40	100	単独	1.5
2	SD	スタッフ・ポートフォリオ作成ミニ・ワークショップ	愛媛大学	20	70	連続受講	6
3	FD	ティーチング・ポートフォリオ作成ミニ・ワークショップ	東京大学(栗田佳代子)	40	100	連続受講	5
4	FD	TBLの手法	高知大学(立川)・高知学園短大(高畑、濱田、三島)	40	90	連続受講	5
5	FD・SD共通	学生の能力開発手法	愛媛大学(秦敬治)	40	70	連続受講	5
6	FD・SD共通	IR関連プログラム	愛媛大学(山田剛史、清水栄子)	40	90	連続受講	5
7	SD	次世代リーダー研修修了者(4期生)担当プログラム	次世代リーダー研修修了者(4期生)	30	70	連続受講	4
8	FD	(タイトル未定)	徳島大学(吉田博)	40	100	単独	2
9	SD	インストラクショナルデザイン(ID/教育設計)を活用した職員による企画・立案マネジメント	愛媛大学(仲道雅輝)	40	70	単独	2
10	FD・SD共通	効果的な振り返りの手法	(講師未定)	40	70	単独	2
11	FD	(タイトル未定)	高知大学(俣野秀典)	40	90	単独	2
12	FD	大人数講義法の基本	愛媛大学(小林直人)	40	70	単独	2
13	SD	職員向けマネジメントセミナーもし、あなたの大学にドラッカーがいたらー	愛媛大学(秦敬治)	60	90	単独	2
14	FD・SD共通	リーダーセミナーⅠ「アクティブ・ラーニングを促すカリキュラム・マネジメント」	大阪大学(佐藤浩章)	90	100	単独	2
15	SD	国際連携系職員養成研修	愛媛大学他	40	70	単独	2
16	FD	Eラーニング関連	高知大学(竹岡篤永)	40	70	単独	2
17	FD・SD共通	学生支援関連	愛媛大学(清水栄子)	40	90	単独	2
18	FD・SD共通	サービス・ラーニング	高知大学(上田・今城)	40	70	単独	2
19	FD	(タイトル未定)	香川大学	40	90	単独	2
20	FD・SD共通	リーダーセミナーⅡ「大学におけるガバナンスとは？」	静岡産業大学(大坪檀)	90	100	単独	2
21	FD			40	70	単独	2
22	FD	(タイトル未定)	愛媛大学	40	70	単独	2
23	SD			40	90	単独	2
24	SD			40	70	単独	2
25	FD・SD共通	修学支援関連	高知大学(未定)	40	90	単独	2
26	SD			40	100	単独	2
27	FD	(タイトル未定)	香川大学	40	70	単独	2
28	SD	社会連携系職員養成研修	愛媛大学他	40	70	単独	2
29	FD・SD共通	大学の防災マネジメント	高知大学(大槻知史)	40	90	単独	2
30	FD	(タイトル未定)	徳島大学	40	70	単独	2
31	FD・SD共通			40	90	単独	2
32	FD・SD共通	シンポジウム：「リフレクション学を創る～成長を確かなものにするために～」	ファシリテーター(東京大学中原淳・予定)/高知大学 俣野秀典)	260	270	単独	2.5
33	大学院生・学生	四国キャンパス元気プロジェクト	高知(塩崎)・徳島(吉田)	40	100	単独	6
計				1,630	2,920		88

(注1) 赤字表記は「FDプログラム」を、青字表記は「SDプログラム」を、緑色表記は「FD・SD共通プログラム」を示す。

(注2) 番号2～7の「連続受講」は、連続での受講を必須とするプログラムを示す。

(注3) 背景が黄色のコマは、講師(もしくは担当大学)及びタイトルが未定のものを示す。

平成25年度第2回四国地区大学教職員能力開発ネットワークFD専門部会議事概要

- 1 日 時 平成25年12月18日(水) 13:00~15:00
- 2 場 所 愛媛大学 城北キャンパス 法文学部本館 2階 小会議室
- 3 出席者 徳島大学 宮田准教授, 吉田助教
香川大学 葛城准教授, 石井修学支援グループチーフ
高知大学 塩崎教授
愛媛大学 山田准教授, 神教育企画課長
- 陪席者 高知大学 武内学務課総合教育センター事務係長
石川学務課総合教育センター事務係員
愛媛大学 清水助教, 濱元教育企画チーフリーダー, 秋山教育企画課員, 三好教育企画課員

4 議 題

(1) 調査・研究プロジェクトについて

宮田准教授から資料1-1~2に基づき、SPOD新任教員研修に関するアンケートについて説明があった。意見交換の結果、アンケート内容については一部修正の上メールにて審議することとなった。引き続きアンケート実施方法について意見交換が行われ、以下の手順とする予定となった。

- ・メール審議の後、平成26年1月中旬までにアンケート内容を確定し、印刷する。
- ・平成26年1月31日までにSPOD事務局が、受講者の所属する加盟校あてに各受講者分のアンケート用紙をまとめて配布し、加盟校の事務担当者が受講者に配布する。
- ・受講者が徳島大学へ2月21日までにアンケートを返送する。
- ・3月上旬までを目処に徳島大学がアンケートの結果をまとめる。なお、集計にあたってアルバイト雇用等が必要であれば、SPOD事務局と徳島大学で調整することとなった。

引き続き、葛城准教授から資料1-3に基づき、大学生の学びの実態に関するアンケート調査について説明があり、質問内容及びアンケートの実施方法について意見交換が行われ、引き続き検討することとなった。

(2) SPODフォーラム2014について

塩崎教授から資料2-1~2に基づき、SPODフォーラム2014の開催案及び提供するFDプログラム案について説明があった。続いて、各コア校に2コマ程度ずつFDプログラムを担当して欲しい旨の依頼があり、プログラム名等が決定次第、連絡することとなった。

なお、塩崎教授から、シンポジウムの講師は、東京大学の中原准教授に依頼する予定である旨の説明があった。

平成25年度SPODネットワークコア運営協議会SD専門部会(第2回) 議事概要

日時：平成25年12月18日(水) 13:00～15:15

場所：愛媛大学 城北キャンパス法文学部本館2階 中会議室

出席者：徳島大学 近田人事課長，小西人事課課長補佐

香川大学 松永給与福利グループリーダー，角田給与福利グループチーフ

高知大学 川崎人事課課長補佐

愛媛大学 秦教授，阿部講師，米澤教育学生支援部長，西尾総務部長，吉田人事課長，

陪席者：愛媛大学 丸山特任助教，山内教育企画課員，戸田教育企画課員，八丈野教育企画課員，

武智人事課副課長，久保人事課人事・人材育成チームリーダー，

大本人事課人事・人材育成チームリーダー，神谷人事課員，川井人事課員

議 題

1. 次世代リーダー養成ゼミナールの欠席者の取扱いについて

吉田委員から，資料1に基づき，次世代リーダー養成ゼミナールの欠席者の取扱いについて説明があった。審議の結果，文章を一部修正し，再度，各コア校の了承を得ることとなった。

2. 次世代リーダー養成ゼミナールの来年度の経費について

吉田委員から，資料2-1に基づき，来年度のSD予算のうち，次世代リーダー養成ゼミナールの予算について，経費削減のため，愛媛大学からスタッフの参加を，2名から1名とすること，及びその代替として，開催県のSD担当者に協力いただきたい旨提案があり，了承された。なお，来年度からSPODフォーラム開催県では，次世代リーダー養成ゼミは開催せず，愛媛県にて2回開催（内1回は合宿形式とする）する旨の提案があり，了承された。また，ゼミの運営に関しても，ゼミリーダーを決定し，スタッフの負担を軽減する旨説明があった。

引き続き，吉田委員から，資料2-2に基づき，関西地区にて開催された次世代リーダー養成ゼミナール（第2回）のアンケート集計結果について報告があった。

なお，来年度は予算の関係上，四国外では開催しないが，ゼミ生が実施するフォーラムの予行演習には，開催県の職員に積極的に参加してもらおう等の工夫する旨説明があり，各コア校に協力について依頼があった。

さらに，来年度，第2回目の徳島県開催の際にSPOD以外の方たちにもゼミを開放すること，隔年で，四国外（大阪等）で開催する旨の提案があり，了承された。

3. 大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルI）【新任職員研修】について

吉田委員から，資料3-1～3-2に基づき，平成26年度の大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルI）【新任職員研修】の日程について，来年度は徳島大学にて開催する旨の説明があった。なお，2日間で開催する旨の提案があったが，審議の結果，研修内容をもっと充実させるため，来年度は2.5日開催にすることで了承された。修正後の日程表については，各コア校へ送付することとなった。

引き続き，吉田委員から，資料3-3に基づき，持ち帰り審議となっていた新任職員研修の各県持ち回り開催について，全コア校の了承を確認した。

また、吉田委員から、資料3-4に基づき、研修マニュアルについての説明があった。

4. 平成26年度SDプログラムについて

吉田委員から、資料4-1～4-2に基づき、平成26年度の研修予定について説明があり、了承された。

引き続き、阿部委員から、平成26年度9月開催予定の職員のための講師養成講座について、「各論」として、総論を受講した方を対象に、1つのプログラムに特化した講師を養成していたが、来年度からは「実践編」とし、複数のプログラムに対応できるようにしたい旨の説明があり、了承された。

5. その他

(1) 次世代リーダー養成ゼミナール修了生のアンケート集計結果について

阿部委員から、資料5に基づき、次世代リーダー養成ゼミナール修了生（1期生・2期生対象）のアンケート集計結果について報告があった。

また、この集計結果については、平成25年度9月に開催された、大学行政管理学会「第17回定期総会・研究集会」でも発表した旨の報告があった。

(2) 次世代リーダー養成ゼミナールのカリキュラムマップについて

吉田委員から、資料6に基づき、平成25年度～26年度中に次世代リーダー養成ゼミナールカリキュラムマップ及びカリキュラムのシラバスを作成する予定であることの説明があった。

(3) 国際連携系職員養成プログラムについて

吉田委員から、資料7に基づき、国際連携系職員養成プログラムマップ作成の進捗状況について報告があった。

引き続き、吉田委員から、プログラムマップ（案）について、各コア校に対し、修正・追記等の取り纏めを平成26年1月下旬締め切りで依頼する旨の説明があり、了承された。

また、開発した国際連携系職員養成プログラムマップを基に、平成26年度のSPODフォーラムにて国際連携系職員養成プログラム研修を実施予定である旨、説明があった。

(4) SPOD-SDプログラムの規定見直しについて

吉田委員から、資料8-1～8-3に基づき、SDプログラムの規定見直しの方向性について説明があり、各大学に本議題を持ち帰り、審議することとなった。なお、意見等あれば、平成26年1月10日（金）までに、連絡いただきたいとの依頼があった。

引き続き、吉田委員から、平成26年度4月1日より適用させたいので、規定見直しについて後日メール審議を行う予定であることの説明があり、了承を得た。

(5) SPOD-SDCについて

秦部会長から、資料9-1～9-7に基づき、SPOD-SDCについて愛媛大学吉田人事課長、久保人事課人事・人材育成コーディネーター、上甲人事課労務コーディネーターがその基準を満たしており、本日開催されるコア運営協議会において3名をSDCとして推薦する旨の説明があり、了承された。

引き続き、阿部委員から、SPOD加盟校からもSPOD-SDCが輩出されるよう、学内でサポートをお願いしたい旨の依頼があった。

また、秦部会長から、SPOD-SDCの申請書について、後日各加盟校へ送付する旨の説明があり、推薦者を募ることについて提案があり、承認された。

(6) SPODフォーラム2014について

吉田委員から、資料10-1～10-3に基づき、SPODフォーラム2014について説明があった。意見交換を行った結果、全体テーマについて、秦部会長が担当校と相談することとなった。

平成25年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」総会
及びFD/S D分科会 実施要項 (案)

- 主催：四国地区大学教職員能力開発ネットワーク (SPOD)
日時：平成26年3月28日(金) 13:00～15:45
場所：(総会) 愛媛大学城北キャンパス総合情報メディアセンターメディアホール
(FD/S D分科会) 愛媛大学城北キャンパス愛大ミュージズ3階M32, 33
出席者：(総会) 加盟校各大学長、短期大学長、高等専門学校長等
(FD/S D分科会) 加盟校 FD/S D担当者等

【総会】

- 13:00 開会挨拶 SPOD会長：愛媛大学長
- 13:05 平成25年度の「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」事業の実施状況について (25分)
- 13:30 平成26年度の「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」事業の運営について (30分)
- 14:00 質疑応答 (30分)
- 14:30 閉会

【FD/S D分科会】※FD分科会及びS D分科会を2箇所で開催

- 14:45 各加盟校での取り組み状況の報告
今後の具体的な事業の進め方について
意見交換 など
- 15:45 閉会

※赤字が前回からの修正箇所

平成25年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」(SPOD)
事業評価委員会実施要項(案)

(趣旨)

平成25年度における「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(ネットワーク略称=SPOD)」の活動内容や前年度の評価委員からの指摘事項に対する改善状況について、実績報告書をもとにSPOD事業評価委員会委員から評価を行っていただき、今後の事業推進に役立てる。

(主催)

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

(日時)

平成26年3月20日(木)13:30~17:30(予定)

(場所)

愛媛大学城北キャンパス愛大ミュージズ3階会議室(松山市文京町3番)

(参加予定者)

SPOD事業評価委員会委員

沖委員(立命館大学), 栗田委員(東京大学), 田中委員(九州大学),
福島委員(追手門学院大学)

SPOD関係者

ネットワークコア校のSPOD-FD/SD担当者

(事務担当)

愛媛大学教育学生支援部教育企画課(SPOD事務局)

※赤字が前回からの修正箇所

平成25年度「ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ」 実施要項

1 目 的

平成20年度よりFDが義務化され、学士課程教育の構築へ向けて各大学における教育の質向上に対する課題が高まっています。徳島大学では、実質的なFDの取り組みを進めるため、3回目の「ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ」を開催いたします。本ワークショップは、教育の質向上及び問題解決のための相互交流と日常的な教育改善のための研修の一つとして実施します。

2 目 標

1. 個人の教育活動を振り返り、教育理念と教育目的を整理する。
2. 個人の教育活動を振り返り、教育戦略・方法を整理する。
3. 個人の教育活動を振り返り、成果と具体的な課題を整理する。
4. 参加者同士の関係性をつくる。

3 概 要

ワークショップでは、個人の教育活動を振り返り、自身の教育理念、教育目的、戦略、方法、成果、課題などを中心に整理を行っていきます。メンターが寄り添い、話し合いを重ねながら自身のティーチング・ポートフォリオを作成していきます。SPOD加盟校より集まった参加者同士で対話を行いながら、自身の教育活動について3日間集中して振り返る作業を行っていきます。

4 実 施 日 平成26年3月6日（木）～8日（土）

5 実 施 場 所 共通教育棟6号館201（徳島大学 大学開放実践センター2階）

6 プログラム 別紙「スケジュール表」参照

7 対 象 者 SPOD加盟校教員

*SPOD=四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

8 メンター

大阪府立大学工業高等専門学校 北野健一
阿南工業高等専門学校 松本高志
徳島大学教育改革推進センター 川野卓二，宮田政徳，吉田 博

9 参 加 費 無料（SPOD加盟校の場合）

10 主 催 徳島大学 FD委員会
四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）

全体スケジュール表(メンター用)

時間	3月6日(木)	3月7日(金)	3月8日(土)
8:00			
9:00		メンターミーティング3 (3Fラボ)	メンターミーティング6 (3Fラボ)
10:00		第2回個人ミーティング (各メンター室)	第4回個人ミーティング (各メンター室)
11:00	受付 共通教育6号館 201	メンターミーティング4 (3Fラボ)	メンターミーティング7 (3Fラボ)
12:00	メンターミーティング1 (3Fラボ)		
	オリエンテーション(6-201)	意見交換+昼食(6-201) 「第2稿をまとめるにあたって」	意見交換+昼食(6-201) 「TPの活用方法・今後の予定」
13:00	アイスブレイク+昼食(6-201)		
		第3回個人ミーティング (各メンター室)	TP作成作業(6-201)
14:00	第1回個人ミーティング (各メンター室)	メンターミーティング5 (3Fラボ)	プレゼンテーション準備(6-201)
15:00	メンターミーティング2 (3Fラボ)		TP披露・修了式(6-201)
16:00			
	TP作成作業(6-201)	TP作成作業(6-201)	
17:00			
18:00			
19:00			
20:00	情報交換会(任意参加)		
21:00			
22:00	初稿提出締切 22:00	第2稿提出締切 22:00	第3稿提出締切 22:00
23:00			
0:00			第3稿締切 月 日() :

月 日()メンターからメールコメント
 最終稿締切 月 日() :
 エビデンスは各自が完成させる

ティーチング・ポートフォリオ作成 ワークショップ参加者募集

教育改善あるいは教育業績評価のための有効なツールとして、近年ティーチング・ポートフォリオが注目され、各高等教育機関への導入が進んでいます。ティーチング・ポートフォリオとは、「自らの教育活動について振り返り(自己省察:Reflection)、自らの言葉で記し、多様なエビデンスによってこれらの記述を裏づけた教育業績についての厳選された記録」です。ご自身の教育について文章化し、教育を行う上で欠かせない理念や戦略などを整理していくことで、ご自身の教育について深く考え、振り返っていきます。ご自身の教育について見直し、改善を行いたいと考えておられる先生はぜひご参加ください。

1.ティーチング・ポートフォリオ・ネット<http://www.teaching-portfolio-net.jp/> 東京大学大学総合教育研究センター 栗田佳代子

日時: 平成26年3月6日(木)~8(土)
申込: 平成26年1月31日(金)まで

会場: 徳島大学 大学開放実践センター
参加者: 定員8名
参加対象者: SPOD 加盟校



自分の教育について、話し合う機会
や振り返る機会がありますか？
**メンターが親身になって教育の
ふりかえりをサポートします。**



【メンター】

大阪府立大学工業高等専門学校 北野健一

阿南工業高等専門学校 松本高志

徳島大学 教育改革推進センター 川野卓二、宮田政徳、吉田博

* ワークショップでは、一人一人にメンターが寄り添い、先生の教育について一緒に考えていきます。

【参加者の声】

- ◆ 一つの教育歴に関するストーリーを書き上げるという印象だった。
- ◆ 自分自身の教育理念の再確認ができたことが最高の成果でした。
- ◆ 参加する前は期待と不安の両方があったが、メンターが大変親切だったので勇気づけられ、安心して作業を進めることができた。(2012年度ワークショップより)

【申込方法】 下記事項をメールにて送信ください。

メール件名: TPワークショップ参加申込み

本文: 1. 氏名(フリガナ), 2. 所属(機関名、学部・学科・研究科等), 3. 職名,
4. メールアドレス, 5. 電話番号

申込先: 徳島大学 教育改革推進センター 吉田博

e-mail : hiroshi-yoshida@tokushima-u.ac.jp

主催: 徳島大学 FD委員会
SPOD(四国地区大学教職員能力開発ネットワーク)

ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ(案)

第 1 日 (2014 年 3 月 6 日・木曜日)

集合場所：共通教育 6 号館 201 (徳島大学大学開放実践センター 2 階)

時 刻	内 容	講師・担当者	備 考
11:30-12:00	受付 (共通教育 6 号館 201) *11:50 までにお集りください		7:00AM 徳島市に「大雨警報かつ暴風警報」または「洪水警報かつ暴風警報」が出ていたら中止
12:00-12:30	オリエンテーション ・ はじめに (副学長よりあいさつ) ・ 自己紹介 (スタッフ・参加者) ・ ティーチング・ポートフォリオとは	吉田博 (進行) 副学長 (教育担当) 高石喜久【予定】 北野健一	教室：6-201
12:30-13:30	アイスブレイク 昼食 ・ 初校へ向けての共通アドバイス メンター，参加者との交流	各メンターから 担当メンティーへ	教室：6-201
13:30-15:00	第 1 回 個人ミーティング 各自メンタリングルームへ移動 一人目 13:30-14:15 二人目 14:15-15:00	スタッフ全員	個人ミーティングの部屋へ移動
15:00-17:00	TP作成作業		教室：6-201
19:00-21:00	情報交換会 (任意参加)		生協食堂 2 階

* 22:00 初稿提出締切 TP支援システムへ投稿
ファイル名 yoshida1_0306(名前+稿番号+日付)

第 2 日 (2014 年 3 月 7 日・金曜日)

時 刻	内 容	講師・担当者	備 考
9:00-10:00	TP作成作業		教室：6-201
10:00-11:00	第2回 個人ミーティング 各自メンタリングルームへ移動 一人目 10:00-10:30 二人目 10:30-11:00	スタッフ全員	個人ミーティングの部屋へ移動
11:00-12:00	TP作成作業		教室：6-201
12:00-13:00	意見交換 昼食 ・ 第 1 稿に共通するコメントと情報共有 ・ 第 2 稿をまとめるにあたって	北野健一	教室：6-201
13:00-14:00	第 3 回 個人ミーティング 各自メンタリングルームへ移動 一人目 13:00-13:30 二人目 13:30-14:00	スタッフ全員	個人ミーティングの部屋へ移動

14:00-17:00	TP作成作業		教室：6-201
-------------	--------	--	----------

* 22:00 第2稿提出締切 TPシステムへ投稿
 ファイル名 yoshida2_0307(名前+稿番号+日付)

第3日 (2014年3月8日・土曜日)

時刻	内容	講師・担当者	備考
9:00-10:00	TP作成作業		教室：6-201
10:00-11:00	第4回 個人ミーティング 各自メンタリングルームへ移動 一人目 10:00-10:30 二人目 10:30-11:00	スタッフ全員	個人ミーティングの部屋へ移動
11:00-12:00	TP作成作業		教室：6-201
12:00-13:00	意見交換 昼食 ・第3稿をまとめるにあたって ・TP 披露の形式説明 ・TPの活用方法 (ワーク)	北野健一	教室：6-201
13:00-14:00	TP作成作業 ・プレゼンテーションの準備 (A4 1枚程度)	スタッフ全員	教室：6-201
14:00~	プレゼンテーション準備		教室：6-201
15:00-16:00	TP披露・修了式 ・メンティーによるプレゼンテーション ・FD委員会委員長挨拶 ・修了証授与 ・記念写真 ・ワークショップを振り返って	FD委員会委員長 日置善郎【予定】	教室：6-201

* 22:00 第3稿提出締切 TPシステムへ投稿

【ワークショップ終了後の流れ】 いずれもTP作成支援システムへご投稿下さい

● 第3稿提出〆切

月 日 () : まで

ファイル名 yoshida3_0308(名前+稿番号+日付)

月 日 ()までにメンターよりコメント

● 最終稿提出〆切

3月 20(木) 17:00 まで

エビデンスは各自が完成させて報告

ファイル名 yoshida4_0320(名前+稿番号+日付)

進化する大学教育の姿がわかる 愛媛大学教育改革シンポジウム

■開催日 平成26年3月5日(水)13:00～15:20

■会場 愛媛大学城北キャンパス総合情報メディアセンター1階

- ★愛媛大学での教育改革の事例発表 @メディアホール
- ★愛大GPの成果のポスターセッション @ロビー

【プログラム】

- ◆ 平成26年度愛大GP申請へ向けた説明 (13:00～13:20)
※平成26年度から新設する種目3の説明を行います。
「種目3」:1人又は比較的小人数の教員グループによる授業改善プロジェクト
- ◆ 愛大GP採択取組事例発表 (13:20～14:10)
 - ①日本語リテラシー教育実践における授業システムの構築(平成24年度採択)
発表者:法文学部 秋山 英治 准教授
 - ②学部専門教育における文章作成の実践的演習と追跡評価システムの構築 (平成25年度採択)
発表者:理工学研究科 伊藤 大道 助教
 - ③質疑応答
- ◆ ポスターセッション (14:20～15:20)
採択プログラムの内容と進捗状況を紹介

【ポスターセッションプログラム一覽】



申込み不要
どなたでもご参加いただけます。
当日直接会場へお越しください。

■お問い合わせ 愛媛大学教育企画課教育企画チーム
TEL:089-927-9154



平成24年度 採択プロジェクト・プログラム名(事例発表取組は除く)	
種目1(2) 教育学部	eラーニングの活用による実質的な「教職実践演習」の実施 ～学習の機会と質を保证するためのeラーニング～
種目1(2) 理学部	フレッシュマンカ全開プロジェクト ～人間関係力とモチベーションの高揚～
種目1(2) 理学部	E-Learningによる副教材学習システムの構築(3) ～動画教材の充実と学生の主体的学習の促進～
種目1(2) 医学部	ハワイ大学医学部との共同開発による実践型卒前多職種連携教育プログラム
種目1(2) 附属高校	確かな学力と課題発見・解決能力を高めるeラーニング活用
種目1(3) 農学部	愛大生の「社会人基礎力」向上のための「学生安全衛生リーダー」育成プログラム
種目2 英語教育センター他	英語学習の順次性・系統性を考慮した大学英語教育プログラムの構築 ～共通テストの拡充、英語フロエックショナル養成コースの拡充、E-learningシステムの拡充を通して～
種目2 学生支援センター他	初年次の健康教育教材の開発 ～健やかに学び続ける愛大生のために～
種目2 教育・学生支援機構他	わが国初、大学生用「食育学」テキストの作成

平成25年度 採択プロジェクト・プログラム名(事例発表取組は除く)	
種目1(2) 理学部	理学部アクティブラーニングスペース活用による学士汎用能力育成の取組み
種目1(2) 理学部	大型望遠鏡を利用した観測天文学実習の推進
種目1(2) 医学部	愛媛大学の医学教育ミッションに基づいた準正課教育の充実と拡充
種目1(2) 附属高校	大学生、高校生、中学生が共に学びあう中高大連携システムの構築 ～ピア・サポートを活用した進路指導システム～
種目2 教育学部他	伝統の継承プログラムを通してグローバルマインドの育成
種目2 教育学部他	重症心身障害児に適切に対応できる特別支援教育教員養成カリキュラムの開発 ～医療的ケアを中心とした学際的知識・技能の養成～
種目2 工学部他	教養英語に接続するESPに基づいた革新的工学英語教育プログラムの開発 ～共通教育英語教員と工学部教員および工学部母語英語教員との協働～
種目2 農学部他	学士課程における国際的に通用する安全衛生教育プログラム及び教育法の開発
種目2 学生支援センター他	愛大生コンピテンシーの涵養に向けた「正課外活動」教育支援の推進